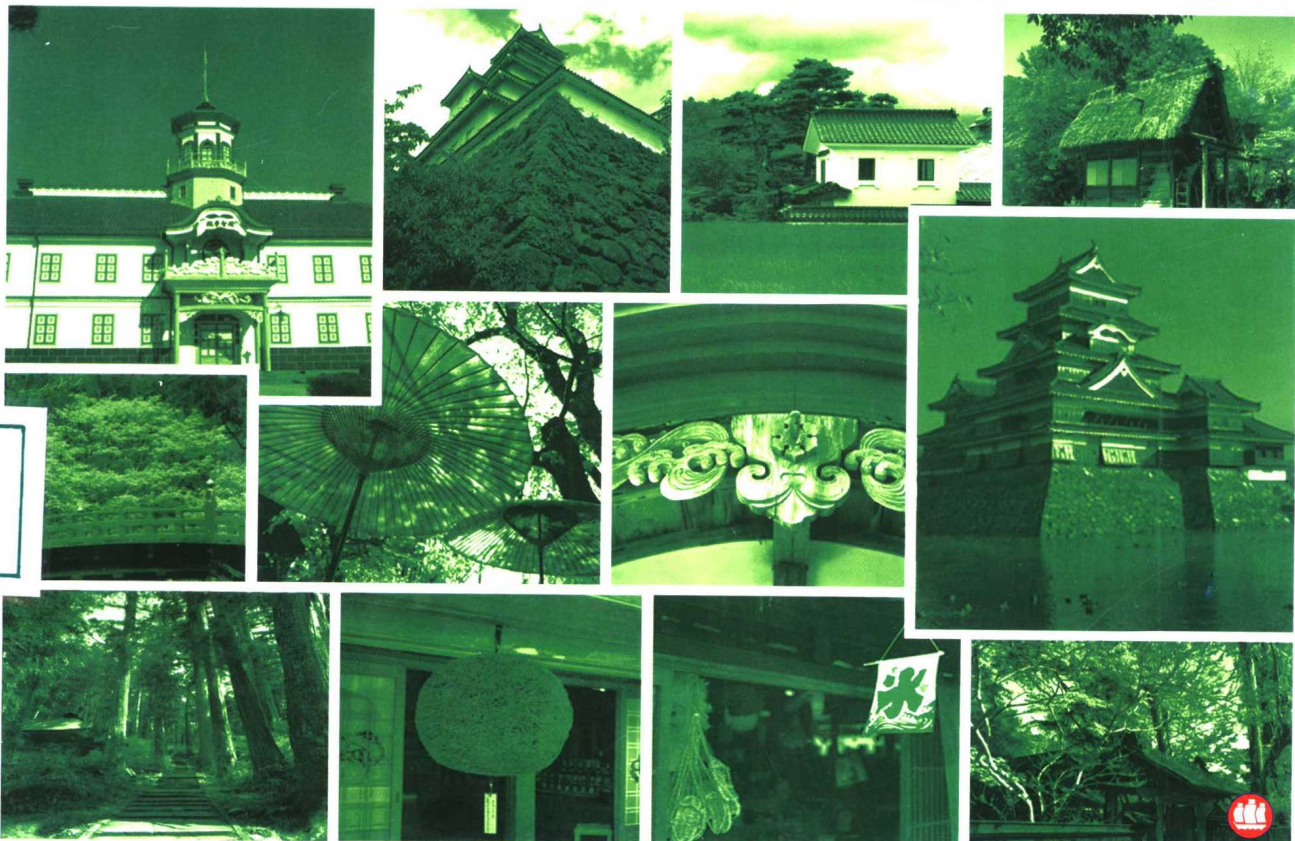




日语 精读

(第三册)

● 赵华敏 彭广陆 李奇楠 编著 ● 顾海根 中原尚道 审校



上海译文出版社



高
年
级

北京大学外国语学院日语系

日语精读

(第三册)

编著 赵华敏 彭广陆

审校 顾海根 中原尚道

江苏工业学院图书馆

藏书章



上海译文出版社

图书在版编目(CIP)数据

高年级日语精读. 第三册 / 赵华敏, 彭广陆, 李奇楠编著. —上海: 上海译文出版社, 2004. 4

ISBN 7-5327-3361-0

I. 高... II. ①赵... ②彭... ③李... III. 日语—高等学校—教材
IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2004)第 013435 号

版权所有 违者必究

**高 年 级
日 语 精 读
第三册**

赵华敏 彭广陆 李奇楠 编著
顾海根 中原尚道 审校

上海世纪出版集团
译文出版社出版、发行
上海福建中路 193 号

易文网: www.ewen.cc

全国新华书店经销
上海译文印刷厂印刷

开本 787 × 1092 1/16 印张 12.5 字数 220,000

2004 年 4 月第 1 版 2004 年 4 月第 1 次印刷

印数: 0,001—5,100 册

ISBN 7-5327-3361-0/H · 611

定价: 20.00 元

本书如有缺页、错装或损坏等严重质量问题, 请向承印厂联系调换

前 言

《高年级日语精读》是国家教育部外语教学指导委员会主持的“21 世纪主干基础课教材”之一，供日语专业三、四年级学生使用。各册教材由课文、注释、词汇、语法、惯用语的用法、练习、阅读课文、附录等内容组成。

本教材的编写以《高等院校日语专业高年级阶段教学大纲》中对“日语综合技能课”的要求为依据，在选材上尽可能涵盖了文化、社会、科学、语言、文学等多方面的内容，力求使学生在巩固基础阶段所学的语言知识的同时，进一步提高驾驭日语的综合能力。

本教材在编写过程中，得到先后在北京大学任教的日本文教专家渡边爱二、中田敏夫、中原尚道、酒井惠美子等先生的大力支持，他们参加每周一次的编委会，审订教材内容，对编写工作提出了许多合理的建议。另外，本教材所采用的课文都选自日本的出版物，原文作者和有关出版社都给予了积极的支持，上海译文出版社也为此教材的出版做了大量的工作。谨此一并表示谢忱。

由于编者水平有限，缺乏经验，加之时间仓促，因此书中难免有这样或那样的谬误之处或缺憾，敬请读者批评指正。

编者
2004 年 2 月

第三册说明

一、正文

本册共分 10 课。由以下内容构成：

课文(本文) 本册课文选用了随笔、演讲、小说、评论等不同体裁的文章，内容清新，饶有趣味。难度上照顾到完成由基础阶段向高年级阶段的过渡，进入高年级阶段的学习，并为进一步提高日语的综合能力提供方便。

注释(注釈) 诠释课文中出现的专业术语及专有名词，以帮助使用者更好地理解课文内容。

词汇(新しい言葉) 以《高等院校日语专业基础阶段教学大纲》以外的词汇为主进行注释，并标出声调。

语法(文法) 对基础阶段及第一、二册未曾出现的语法项目进行讲解、说明；对已出现过、但有一定难度，基础阶段不宜过多涉及的语法现象做进一步的归纳、整理，并有意识地溶入对古典语法的解释。为增强学生阅读、理解的能力，所使用的例句除个别经过加工之外，绝大部分均为实例。

惯用语用法(言葉の使い方) 利用大量实例，对常用的惯用语做详尽的解释，弥补了以往教材的只释义或只举少量例句的缺陷。有助于使用者加深对惯用语意义和用法的理解。

练习(練習) 分别设立了“言葉の学習”、“文法の練習”、“表現の工夫”、“内容の理解”4个项目，通过大量的专项和综合练习，以达到巩固所学知识，加深对日本人的语言心理和语言文化背景理解的基础上，进一步提高日语的综合运用能力。

二、阅读课文

共 4 篇。在选材上力求接近正课文的题材，以便教员作为补充教材加以利用，同时也为学生自学提供一些素材，以达到扩大词汇量之目的。

三、附录

由“文法項目の索引”、“言葉の使い方の索引”、“新しい言葉の索引”三部分组成，以便于使用者复习、检索。

四、本书的编写、分工

课文、阅读课文由编写人员共同对所选素材加以筛选、讨论决定。具体分工和执笔者如下：

赵华敏：选材、整体设计、练习、全书统稿。

彭广陆：语法、惯用语用法、语法项目和惯用语用法的索引。

李奇楠：注释、词汇、词汇索引。

顾海根教授协助了本教材的立项工作，参与了选材工作、编委会的组织工作及全书的审订工作。原北大文教专家渡边爱二先生为本书的编写提供了大量的素材和宝贵的建议；原北大文教专家中原尚道先生对全书进行了审订。原北大硕士生张国静协助了课文和阅读课文的录入。

本书曾作为北京大学内部教材出版，在本校日本语言文化系试用两年和清华大学日语专业试用一年的基础上，经过修订，此次正式出版。尽管如此，仍有诸多不尽如人意之处，欢迎使用者提出宝贵意见，以便将来进一步完善。

本教材每课的词汇（新しい言葉）中所使用的符号和词汇属类简称如下：

一、符号

- ▼ 非常用汉字
- ▽ 非常用汉字音训
- 〈 〉 熟字训

二、音调

主要以《NHK 日本語発音アクセント辞典 新版》为准，采用①②③……的形式标出。

三、词汇属类简称

- | | |
|--------------|------------------|
| 〈名〉——名詞 | 〈自五〉——自動詞・五段活用 |
| 〈副〉——副詞 | 〈自サ〉——自動詞・サ行変格活用 |
| 〈接〉——接統詞 | 〈自上一〉——自動詞・上一段活用 |
| 〈感〉——感嘆詞 | 〈自下一〉——自動詞・下一段活用 |
| 〈形〉——形容詞 | 〈他五〉——他動詞・五段活用 |
| 〈形動〉——形容動詞 | 〈他サ〉——他動詞・サ行変格活用 |
| 〈助数〉——助数詞 | 〈他上一〉——他動詞・上一段活用 |
| 〈連体〉——連体詞 | 〈他下一〉——他動詞・下一段活用 |
| 〈助動〉——助動詞 | |
| 〈副助〉——副助詞 | |
| 〈格助〉——格助詞 | |
| 〈接助〉——接統助詞 | |
| 〈連語〉——連語（词组） | |

目 次

第一課	出たがりと引っ込み……………岡部朗一	(1)
第二課	生活のリズム……………増田四郎	(14)
第三課	車座社会に生きる日本人……………大岡信	(31)
第四課	空と結ばれた自分……………池沢夏樹	(46)
第五課	野の記憶……………大庭みな子	(61)
第六課	「は」の主題文に日本語の姿を見る……………森田良行	(73)
第七課	自己演技と表情……………野村雅一	(93)
第八課	住まい方の思想……………渡辺武信	(111)
第九課	学問のすすめ……………福沢諭吉	(130)
第十課	鏡……………村上春樹	(143)

〔補助教材〕

一	墓参りは楽しい……………新井満	(161)
二	「的」のつく言葉……………鈴木修次	(166)
三	言葉のカケラ……………工藤直子	(170)
四	小道の収集……………長田弘	(175)

【付録】

文法項目索引……………	(178)
言葉の使い方の索引……………	(181)
新しい言葉の索引……………	(184)

第一課 出たがりと引っ込み

岡部朗一

本文

人間には大きく分けて二つのタイプがあるように思われる。一つは、他者を押しのけてまで自らを目立たせようとする出たがりのタイプであり、あと一つは自分の存在を他者の陰に隠してしまう引っ込みのタイプである。一方は押しの一手で突進する型で、他方いわば引きの姿勢で後ずさりする型の人間である。

出たがり屋が目立つのは、対称性と平等性に裏打ちされた個人志向の価値前提を信奉する「わたし」の文化である。独立独歩の「一匹狼」が幅を利かす文化でもある。反対に引っ込み屋が優勢なのは、他者との調和を重視する補完性に立脚した集団志向の文化価値が尊重される「わたしたち」の文化である。一匹狼というよりはむしろグループ・プレーヤーが大事にされる。

出たがりであるか引っ込みであるかは、それぞれの文化のメンバーが自己をどのように見るかで決まる。アメリカ人と付き合っていると、彼らが自己を人間関係の中心点、行動の準拠点と見なし、自らの行動をいつも他者に先駆けて行おうとする気質が旺盛^{おうせい}であることに驚かされる。自己を外に向けて拡大、拡張しようとする傾向が強い。これに対して日本人は、他者との人間関係の中に自己を埋没させて、あまり公的に自分を表出させないことに美学を感じる国民のようだ。自己をどの程度外に向かって出すか、あるいは自己を内に隠して外に出さないかは、文化によって違いがある。

自己の公的性、私的性と異文化コミュニケーションとのかかわりに最初に注目したのは、D・バーンランドというアメリカのコミュニケーション学者である。彼は「公的自己」と「私的自己」という二つの鍵^{かぎ}概念を提示して、自己を他者に開示する程度には文化によって違いがあると仮定して、日本人

とアメリカ人を調査対象にして実証的な研究をした。

バーンランドは次のように仮定した。対人コミュニケーションの参加者の一方が自己のうちで他方に開示してもよいような部分を公的自己の領域、自己のうちで他者に開示するかどうかは自己の置かれた状況、雰囲気、ムードによって決まるような隠された部分を私的自己の領域、それに双方が意識していない部分の自己を無意識領域とそれぞれ定義して、コミュニケーションの状況により各人はこれらの領域を他者へどの程度開示するかを決めると言う。

アメリカ人は公的自己に価値付けしているために、コミュニケーションでは自己を外に出して徹底的に相手に迫っていく傾向が強いのではないかと、バーンランドは仮定している。これとは対照的に、日本文化では私的性に高い価値が置かれているので、コミュニケーションでは公的自己を抑えてなるべく自己を外へ出さないようにして、他者とのよい人間関係を維持しようと努めていると言う。

公的自己を全面に押し出す出たがりタイプのアメリカ人と、私的自己を重視する引っ込み型の日本人とでは、そのコミュニケーション形式でどのような違いがあるだろうか。まず、アメリカ人はコミュニケーションの相手をえり好みせず、だれとでも、かつ数多くの人と気楽に付き合う傾向が強い。見ず知らずの人でも、あまり気にせずにコミュニケーションができる。また、相手がだれであるかによって、コミュニケーション形式を変えるようなことはせずに、常に形の一貫性を保っている。これに対して日本人は相手のえり好みが強くと、見知らぬ人とは心を開いてコミュニケーションをしたがらない。知った人とのコミュニケーションに限定しておけば、自己開示をして公的自己を出さなければならないような危険性から、身を守ることができるからである。

出たがり屋は、儀式とか規則に縛られない自由なコミュニケーションを好む。形式にのっとりたコミュニケーションは、自己を外に開示する妨げになるものとの見方が強いからである。反対に引っ込みタイプの人には自由な形式のコミュニケーションが苦手で、規則、形式にのっとりた儀式性の強いコミュニケーションのほうが、心に落ち着きを与えてくれるようだ。対人関係で公式性という蓑に隠れば、自己を他者に明かす程度を抑えることができる

のである。

アメリカ人はいろいろなトピックについて個人的な見解、感情をもろに相手にぶつける傾向が強い。これとは対照的に、日本人は個人的な感情、意見をストレートに相手に出すようなことはせずに、没個性的なコメントに終始して、自己の内面をなるべく相手に表出しないように配慮している。会話の素材としては、自分の内面のことよりはむしろ自分の外にある「外的事項」を取り上げて、なるべく自己が公的に出ないようにガードを固くしている。

非言語動作の使い方にも、出たがりタイプと引っ込みタイプとでは違いがある。公的自己を開示する出たがりのアメリカ人は、言語とともに非言語チャンネルも駆使して自己を相手にさらけ出す傾向が強い。体を強烈に動かし、大きなジェスチャーを使って、時には相手への身体的な接触をも試みて、自己をアピールする。これとは対照的に、喜怒哀楽を出さないことが文化的な美德だと、小さいころから教え込まれてきた引っ込みタイプの日本人には、対人コミュニケーションで非言語を通してあまり感情を出さないことが良しとされている。能面的な表情が日本人の典型である。多様なチャンネルにあまり頼らないでいれば、それだけ自己を外に開示せずに済むのでは、との意識がどこかで働いているからである。

最後に、コミュニケーションで相手から存在を脅かされた場合、その対応の仕方にも興味ある対照が見られる。アメリカ人は相手から言葉で挑戦されれば、言葉でもって積極的に対応するように小さいときから教えられている。徹底的に言葉で返し、自分の公的自己を相手に知らせることによって、最後には互いが理解し合い、脅威が解消するものだと考えている。言葉の脅かしには言葉でもって返すという言語習慣である。これに対して日本人の場合は、相手から言葉で挑戦されると、言葉で反撃するというよりは自己の内に引っ込んで、防御的になる傾向が強い。「長いものには巻かれろ」式のメンタリティーが支配的である。

現在のような異文化化の時代では、出たがり一方の性格では異なる文化背景の人からは出しゃばりだと思われかねないし、反対に引っ込みはそういう性格だから仕方がないといって、内にこもってばかりいれば、内気過ぎると

言われかねない。やはり公的自己と私的自己のバランスをどこかで取って、異文化コミュニケーションに対応しなければならないのが時代の要請である。

【明治書院『高校生の国語Ⅱ』による】

岡部朗一（おかべ ろういち）

1941——。愛知県の生まれ。言語学者。話し言葉によるコミュニケーションを専門とし、異文化間のコミュニケーションに考察を加えている。著書に『スピーチ・クリティシズムの研究』『異文化コミュニケーション』（共著）などがある。

「出たがりと引っ込み」 出典は『異文化を読む』（1988年刊）。

注 釈

対称性（たいしょうせい） ここでは個人と個人とがお互いに独立していること。／対称性。

補完性（ほかんせい） ここではお互いが依存し合っていて、独立していないこと。／補充性。

新しい言葉

ひっこみ③【引っ込み】〈名〉 引っ込むこと。目立たない状態に位置すること。／（消極）退縮；畏縮。

おしのける④【押しのける・押し▽退ける】〈他下一〉 1. 押してどける。／推开。 2. 人をさしおいて自分が出ようとする。／（把競争者）排挤掉；战胜。

あとずさり③【後ずさり・後▽退り】〈名・自サ〉 前を向いたままで後ろに下がること。後じさり。／后退；退縮。

しこう⑩【志向】〈名・他サ〉 精神・思想がある方向を目指すこと。／志向；意向。

いっぴきおおかみ⑤【一匹おおかみ・一匹狼】〈名〉 （群れから離れて1匹だけで行動する狼の意から）組織・集団に属さず独自の行動をする人。／单干者；单干户；单枪匹马。

グループ・プレーヤー⑥【group player】〈名〉 集団の一員として、その集団の目的にそって事を行う人々。／作为集体的一员，按集团的目的行事者。

ひょうしゅつ⑩【表出】〈名・他サ〉 精神内部のものを外部にわかるように現すこと。／表现出；表述出；表露出。

コミュニケーション④【communication】〈名〉 意思や情報を通じ合うこと。伝達。／交流；沟通；通信。

こうてき⑩【公的】〈形動〉 おおやけであるさま。公共のことに関わりのあるさま。／

公的；公共的；官方的。

してき⑩【私的】〈形動〉 公的な立場から離れた個人の名誉・利益などに関係するさま。

個人的。プライベート。／私的；私人的；个人的。

かいじ⑩①【開示】〈名・他サ〉 外部に対し内容を明らかに示すこと。／明示。

ムード①【mood】〈名〉 気分。情調。雰囲気。／心情；气氛；情趣；情调。

たいしょうてき⑩【対照的】〈形動〉 二つのものの違いが非常に際立っているさま。／对比鲜明的；正相反的。

えりごのみ⑩【えり好み・▽選り好み】〈名・他サ〉 好きなものだけを選びとること。より好み。／挑剔；挑挑拣拣；挑肥拣瘦。

のっとり③【▽則る・▽法る】〈自五〉 基準とする。手本とする。／根据；遵照；效法。

みの①【▼蓑】〈名〉 かや・すげ・しゅろ・わらなどを編んで作ったマントのような雨具。

／蓑衣。ここの「蓑に隠れる」や「隠れ蓑にする」は本心や正体を見破られないための手段として何かを利用するという意を表す。／伪装；作为遮羞布。

トピック①②【topic】〈名〉 話題。論題。／话题。

もろに①〈副〉 さえぎるものや和らげるものがなく、まともに。完全に。／全部；迎面。

ストレート③【straight】〈形動〉 1. 表現が率直なこと。／直率；直截了当。2. 物事が連続して行われる様子。続けざまに。／直接。

ぼつこせい③【没個性】〈名・形動〉 個性のないこと。また、そのさま。／无个性（的）。

コメント⑩【comment】〈名・自他サ〉 ある問題について、意見や、補足的な解説などを加えること。評釈。論評。／评语；评论；解说。

ガード①⑩【guard】〈名・他サ〉 防御、警戒すること。また、その人。／警戒（人员）；戒备（人员）；警卫（人员）。

チャンネル⑩①【channel】〈名〉 1. テレビやラジオの各放送局に割り当てられている周波数。特に、その周波数をもつテレビ局。／频道。2. （コミュニケーションの）経路。道筋。方法。方式。／途径；方法；方式。

ジェスチャー①【gesture】〈名〉 1. 身振り手振りなど、体を使って意思を伝えること。／姿勢；手势。2. 見せかけの行為。そぶり。振り。／摆样子；作姿态。

アピール②【appeal】〈名・他サ〉 主張を大衆・相手方に訴えること。また、その訴え。／呼吁；申诉（……的主张）；控诉。

のうめん⑩【能面】〈名〉 能を演じる人が、その役にしたがってかぶる仮面。「能面のような顔」は端麗な顔、表情に乏しい顔にたとえる。／能乐用的、表情单调的面具。

おびやかす④【脅かす】〈他五〉 1. 恐れさせる。恐がらせる。／威吓；威逼。2. 現在の生活や状態などを危うくする。／威胁。

メンタリティー⑤【mentality】〈名〉 精神構造。心的傾向。精神作用。／心理状态；精神作用。

でしゃばる③【出しゃばる】〈自五〉 1. よけい、（無関係）な事に口を出したり、手を出したりすること。／多嘴；多管闲事。2. 他人を押しつけて、自分が主になって物

事をしようとする。／出风头。「でしゃばり」は出しゃばること、また、その人のことをいう。／多嘴（的人）；多管闲事（的人）；出风头（的人）。

うちき⑩【内気】〈名・形動〉人前で自分の意思を表明するのが恥ずかしいと感じる性格。内向性。／腼腆；羞怯。

ようせい⑩【要請】〈名・他サ〉必要なことを実現するように願い求めること。／要求；請求。

文法

1. Vてまで

助詞「まで」が動詞の「て」の形に付く場合、「ある目的を達成するために普通考えられないような極端なことをする」という意を表す。

- 1) 日本人の習性として、学校を休ませたり、仕事を休んだりしてまで、子どもを万博に連れて行く親はごく珍しい。
- 2) 日本を代表するエースという地位を捨ててまで野茂は夢を貫く。
- 3) 薬の助けを求めてまで、ベン・ジョンソンを走らせたものはなんだろうか。
- 4) わたくしにとって、この実の子である自分を捨ててまで、信仰を全うしようとした母を許すことができなかったのです。
- 5) 生命を賭けてまでなぜ山へ行くのかの問題に対しては、いかなる人も、ほとんど満足に答えることはできなかった。
- 6) アルコールが飲めない人や嫌いな人は、無理してまでアルコールを飲む必要はありません。
- 7) ヨレヨレになってまでは勤め続けたくない。
- 8) そんな悪事を働いてまでも生きていようとは、私は決して思いは致しません。
- 9) だから老いても、若く装い、顔のシワを整形してまでも若くみられたいと願う気持ちはわかる。
- 10) 硬と軟を使い分け、時には党首を取り換えて、イメージチェンジしてまでも政権維持を図る。

2. N₁とN₂とでは

「N₁とN₂とでは」は、比較される二つの物事を表す名詞を並べるのに用いられる。

- 1) りんごとバナナとでは、どちらがすきですか。
- 2) 恵まれた大企業と経営基盤の弱い小企業とでは、かなり違う。
- 3) コマーシャル・スマイルがその典型であるが、人前と一人でいるときとでは、がらっと表情の変わる人がある。
- 4) 「国家」と書く場合と、ひらがなで「くに」と書く場合とでは、ずいぶん違った感じがある。
- 5) はじめの三つと、後の三つとでは、どうも釣合いがとれないようだ。

- 6) 今、千三百年たった法隆寺のヒノキの柱と新しいヒノキの柱とでは、どちらが強いかと聞かれたら、それは新しいほうさ、と答えるに違いない。
- 7) 生徒と先生とでは、もっている情報や、世の中の認識の仕方に、ずいぶん違いがある。
- 8) ホールにしたがえば、日本人とアメリカ人とでは、一般に、対人間の距離はアメリカ人よりも日本人のほうが大きい。
- 9) 西洋人と東洋人とでは、街というものについての感覚が違う。
- 10) 中国と日本とでは国を別にするのであるから、語源を同じくする故事成語でも、当然のことながら相違が生じる。

3. からく好ましくない状態>

助詞「から」には、「好ましくない状態や出来事」を表す用法がある。後続する動詞は、その好ましくない状態や出来事から遠ざかったり脱出したりすることを表すものに限られている。

- 1) できる限り労働災害から労働者を守るという姿勢が必要なのは言うまでもない。
- 2) こうしなければ歩行者を交通事故から守れない。
- 3) 神経が狂ってしまう危険から自分を救う方法は、ただ一つ何事をも考えない事だ。
- 4) どうすれば肺がんの危険から身を守れるかは、はっきりしてきた。
- 5) 自然災害から身を守るためにもっと環境を大事にしなければならない。
- 6) 11 日の釈明について首相周辺はほぼ一様に「爆弾を抱えていた状態から身軽になった」といった受け止め方だ。
- 7) 第一こんな不安定な状態からあなたは愛子さんや貞世さんを救う義務があると思いますよ、僕は。
- 8) これは日常の緊張状態から解放される時間をもつために必要なことである。
- 9) その状態から体力を回復するには食べることより方法がないのに、作業に出られぬ者には一段と食事の配給が減らされた。

4. Vずにすむ (Vずに済む)

「好ましくない出来事が発生しないで事が終わる」という意を表す。

- 1) このような支援の仕組みがあれば、体が不自由になっても、住みなれた家を離れずにすむ。
- 2) 失敗をしなければ上司に怒鳴られずに済みますが、失敗を恐れるあまり画一的な提案、返答しかできなくなります。
- 3) 何かを読んでいれば眠らずにすむし、時間も速く過ぎてしまう。
- 4) 僕は禿にはならずに済んだが、その代りにこの通りその時から近眼になりました。
- 5) もう少しで神経衰弱になるというところで、ならずに済んでいるのです。
- 6) わからせてもらったおかげで、もう悪い夢を見ずにすみそうです。
- 7) 子育てを楽しみながら、仕事も手放さずに済むような社会づくりをめざしたい。

- 8) 人間の苦痛ですら知られずに済む世の中に、誰が畜生の苦痛を思いやろう。
- 9) どうすれば、政治や選挙にカネをかけずにすむかが、政治改革の核心テーマだったはずだ。
- 10) 大事に至らずにすめば、何よりだ。

5. でもって

名詞に「でもって」が付くと、「何らかの目的を達成するための方法や手段」を表す。「でもって」が付く名詞は抽象名詞や動作性^{てんどうせい}の名詞が多い。

- 1) その音は、私にだけわかる音波でもって、たえず私に語りかけてくる。
- 2) 理屈はそうだろうね、しかし、そんな形式的な片々たる記録でもって、生徒の個性がわかるだろうか。
- 3) 二人とも「同じ言葉」でもって「同じ料理」について議論している。
- 4) そうやって、自らの意志でもって、自分の人生の設計をする。
- 5) 子供の素直な成長が何かの力でもって押えつけられたとき、成長の歪みが生ずる。
- 6) この種の勇氣は、意志の力または練習でもって、ある程度まで養うことができるであろう。
- 7) 一度や二度の見合いでもって、お互いの意気や性質が分る筈はない。
- 8) 言うまでもなくわれわれは合法的な活動でもって、かくの如き事態を解決してゆきたい。
- 9) ……体罰と一口に言うけれども、体罰にだっていろいろあると思うんですよ、ほんの少しの体罰でもって、より大きな教育効果をあげることであり得るんだ。
- 10) そしてそこで何かを思いついたように、微笑でもってその緊張を弛めました。

6. Vてばかりいる

「好ましくない動作や状態が続いている」という意を表す。

- 1) あの子は食べてばかりいる。
- 2) 父は半身不随で、怒ってばかりいます。
- 3) 子供のときから叱られてばかりいた。
- 4) 逃げてばかりいたくせに、えらそうなこというなよ。
- 5) バカだからなかなか仕事が覚えられなくて、計算も間違ってばかりいて、みんなが俺のことバカにするのがわかるんだよ。
- 6) お互いに過去にこだわってばかりいては、事態の打開は望むべくもない。
- 7) そうお前のように笑ってばかりいちゃ仕様がな。
- 8) しかし、人間、座ってばかりいると確実に早死にしそうだ。
- 9) もちろん、規則的に生活するとはいっても、その規則に拘束されて、そのことを気にしてばかりいるのでは、本末転倒であろう。
- 10) 今にお俊ちゃん達も笑ってばかりいられなくなるよ。

言葉の使い方

1. おしのいって（押しの一手）

「目的をとげるために、相手に対して自分の意志を貫き通すこと」という意を表す。「押しの一手で」の形で用いられるが多い。

- 1) 相手がそんなに頑固なら、こちらも押しの一手でいくしかあるまい。
- 2) そして突然、その地の空港や一流ホテルのロビーから電話して、その情熱的な押しの一手で関係をつけると、さっそく、旅費などの口実で20万円程度のすんしゃく借サギを重ねたのである。
- 3) すったもんだのあげく押しの一手で相手を屈服させ、とにかく3千円払い込んで30万円の仮契約証をその晩のうちに手にすることができたのである。
- 4) そんなに押しの一手でこられても、私としては規則を曲げてまであなたの要求を通すわけにはいきません。
- 5) 彼はこちらの立場を考えようとせず、押しの一手でくるばかりで、冷静に話し合おうとしない。
- 6) 私はその提案に賛成ではないのだが、彼らは押しの一手でそれを通してしまった。
- 7) 私の言うにはあなたは押しの一手の人だということです。

2. はばをきかす（幅を利かす）

「勢力をふるう」という意を表す。「幅を利かせる」とも言う。

- 1) 建築界全体ではまだまだ男性が圧倒的に幅を利かしている。
- 2) 政治的な思惑や地域エゴなどが幅を利かしすぎると、社会資本整備の筋が曲がり、国民の信頼を失うことになる。
- 3) その点アメリカなどでは、地方紙が幅を利かせていて、世界的に知られる『ニューヨーク・タイムズ』でさえ、発行部数は『読売』などと比べると足下にも及びません。
- 4) わが国政財界に依然、輸出規制論が幅を利かせているのはどうしたことか。
- 5) 君たちはこれから学歴社会——大学を出たって言うだけでバカな奴が幅を利かせているような、この不合理な社会に飛び込んで、たくさんの偏見や差別をはねのけて生きて行かなくちゃならないんだぞ。

3. みずしらずのN（見ず知らずのN）

「一度も会ったことや見たことがなく、知らないもの」という意を表す。

- 1) 彼は見ず知らずの^{えきしよ}易者なぞに自分の運勢を占ってもらったことを悔いた。
- 2) そこへ見ず知らずの若者が蒼ざめた顔付をして訪ねて来た。
- 3) そんなこと言えるわけないよね、見ず知らずの女の人に。
- 4) そんなにうまい話なら、なぜ自分のような見ず知らずの人間に、こうも熱心に勧めるのか。